

2018地域づくりインターン (8月15日～31日) 活動報告書



法政大学 現代福祉学部 2年 大和 亜紀
法政大学 現代福祉学部 2年 齋藤 裕未

目次

スケジュール・・・・・・・・・・P3

自己紹介・・・・・・・・・・P4

活動報告・・・・・・・・・・P5

インターンを終えて・・・・・・・・p11



*スケジュール

日程	曜日	午前	午後	備考	場所
8月15日	水		産業課へあいさつ、 小島地区あいさつ回り、買い出し	夜:小島地区盆踊り	役場→小島地区
8月16日	木	農作業お手伝い	農作業お手伝い		育苗センター(菅野善左工門さん)
8月17日	金	農作業お手伝い	農作業お手伝い		育苗センター(菅野善左工門さん)
8月18日	土	おじま一番の市	農作業お手伝い		9:00 旧JA川俣飯野小島支店 13:30 佐藤源造さん宅
8月19日	日	休み	休み		
8月20日	月	農作業お手伝い	農作業お手伝い		斎藤ミイ子さん宅
8月21日	火	子供達との勉強会			小島公民館
8月22日	水	農作業お手伝い	農作業お手伝い		佐藤正俊さん・ムツさん宅
8月23日	木	農作業お手伝い	農作業お手伝い		佐藤正俊さん・ムツさん宅
8月24日	金	農作業お手伝い	農作業お手伝い		佐藤正俊さん・ムツさん宅
8月25日	土	川俣シャモまつりのお手伝い			川俣町中央公民館
8月26日	日	報告書作成・報告会準備			
8月27日	月	農作業お手伝い	農作業お手伝い		8:30 高橋祐吉さんのハウス
8月28日	火	農作業お手伝い	農作業お手伝い		8:30 石河ルイさん宅
8月29日	水	農作業お手伝い	農作業お手伝い		AM 佐藤千代さん宅 13:30 佐藤米子さん宅 15:00 おじまふるさと交流館 (菅野茂さん)
8月30日	木	報告書作成・報告会準備		18:00~現地報告会	小島公民館
8月31日	金	産業課へあいさつ後、帰宅			役場

* 自己紹介

大和 亜紀

法政大学 現代福祉学部 2年

東京都青梅市出身

志望動機：私が今回地域づくりインターンに参加しようと思った理由は、大学で学んでいる地域づくりに関することを実践の場でも経験し、今後の学びに生かしたいと考えたからです。今年の2月には岐阜県でのワーキングホリデーに参加し、地域づくりについて学んだ際に、自分の持っていたその都道府県のイメージと、各地域における実態について良くも悪くもギャップがあり、それらは他の地域においても言えることだと感じ、夏休みの長い期間を利用し、それらについて触れたいと思うようになりました。

また、川俣町を選んだ理由は、たくさんの農家さんのところへお世話になって様々な経験をさせてもらうことが出来るので、多くの地域の方々と近い距離で関わることができ、川俣町の良さ、そして課題を見つけ、よりリアルに捉えることが出来るのではないかと考えたからです。農作業については今までに体験したことがなく、未知の世界であったと言えるのですが、今までにやったことのないことを経験することで学ぶことが沢山あると思い、また自分の視野を広げることにも繋がると考え、川俣町のインターンを通して農作業の経験もしてみたいと思いました。



齋藤 裕未

法政大学 現代福祉学部 2年

神奈川県横浜市出身

志望動機

私がこの地域づくりインターンに参加しようと思った理由は、1つは地域系のゼミに入ったということもあり、去年それに参加した人たちの話を直接聞くことができたので、よりイメージが湧き、参加したいという思いが強くなったからです。またもう1つの理由としては夏休みが2ヶ月弱ある中でバイトや遊びで終わってしまっているのかという不安感があり、何か自分にとって為になることをやりたいと考えた時にこういうものがあることを知って、自分を成長させることが出来るのではないかと考えたからです。

またこの川俣町を選んだ理由として派遣地決定会の際にお話を聞いて、とても地域と密接に関わっているインターンだと思い参加しよう決めました。私は農作業という農作業をして来なかったので、農作業がどのようなものかというのを実際に体験したいと考えました。またもう1つひかれたのはシャモ祭りです。約100匹の鶏を丸焼きにして並んでいる写真を見せてもらった時にこのお祭りに参加したいという思いがとても強く、この目で見てみたいと思ったからです。



*活動報告

8月15日 夜 小島地区盆踊り大会

この日の昼間に福島につき、役場やお世話になる農家さんに挨拶回りに行ったのみで、まだ川俣町自体に慣れていない状態だったので、なかなか周りの人に話しかけることができませんでした。けれど、見慣れない私の姿を見つけてくれた人が、「インターンの子?! よろしくね」というように何人もの方々に話しかけてくれました。まだ全然川俣のことについては知らない状態でしたが、町の一員としてみてもらえたように感じられて嬉しく思いました。

盆踊りは、雨が降っていて短時間で終了になってしまいましたが、周りの出店でもたくさん楽しむことができました。この出店は、盆踊りをより楽しいものにしたいという有志でお父さん方を中心に行なっているものだと教えてもらいました。そのことから、小島に対する熱い思いが感じられました。地元の盆踊りというものは、地域の人たちの想いや協力が積み重なってできているのだなと実感しました。



8月16日・17日 菅野 善左エ門さん

・苗箱洗浄・かかし立て・草刈り

1日目は大雨の中、苗箱の洗浄とそれらを紐でくくる作業を行いました。

4種類ある微妙な違いの苗箱を区別することや、決まった紐の結び方をすることが初めは大変でした。紐の結び方一つをとっても様々な結び方があり、苗箱を結ぶのには後から簡単にほどこける結び方、紐と紐の結び目には絶対にほどこけない結び方...など深いところまで教えていただきました。丸一日の活動時間を使い、相当たくさん量の苗箱を洗い、全て結び終わった時には凄く達成感がありました。

2日目は、午前中に田んぼに行き8つのカカシをたて、午後には草刈り機の使い方をレクチャーしてもらい、草刈りを行いました。田んぼに行った時には、カカシを始めとするスズメ・イノシシよけの対策が様々に施されていることを知りました。具体的には、スズメよけのための反射するテープを田んぼ全体に張ったり、ワシの形をしていて風が吹くとまるで本物のワシが飛んでいるかのように動く凧のようなもの、他にも人間の腰の高さくらいの金属の格子で田んぼ全体を囲い、イノシシが入ってこられないようにするイノシシよけです。これらのことを知り、田んぼからだけでもお米を守るための知恵を沢山知ることができ、感動しました。



8月18日 午前 おじま一番の市

おじま一番の市は、毎月第一・第三土曜日に旧 JA 川俣飯野小島支店で開催されている、小島地区の農家の皆さんによる市です。参加する前から噂で、「100円で美味しい野菜が買えるよ」というようなことを聞いていたので、その日が来るのをとても楽しみにしていました。主に全て100円というのに、大きくて立派な美味しそうなお野菜を袋いっぱい買うことができました。

市がメインではありましたが、参加している農家さん同士でお漬物などを持ち寄り、みんなでテーブルを囲んでいました。川俣に来てまだ間もない頃だったので、皆さんがたくさん集まっている場には少し緊張しましたが、お茶を飲みながら農家さんたちに色々とお話を聞かせてもらうことができました。



8月18日 午後 佐藤源造さん 木のお手入れ 雑草取り

来た日の午後に作業が始まり、いろいろ初めてで慣れないことも多かったのですが、源造さんの木のお手入れの仕方がプロで私たちは上手くできない部分が沢山あったのですが、優しく教えてくださったので不慣れながらもお手入れすることができました。また上手と褒めていただいたので、楽しみながら作業することができました。その後機械を使って雑草を取る時に最初機械が言うことを聞いてくれなかったのですが、コツを教えてもらったらすぐにできたのでとてもありがたかったです。休憩時間にはお花の写真など色々を見せていただき、特にこれからの時期のコスモスの写真は本当に綺麗でした。



8月20日 齋藤ミイ子さん

・トマトの収穫・葉の間引き

1つのハウス分のトマトを収穫しました。その場で自分で取ったトマトを食べていいよと言ってくださり、食べたトマトは今まで食べた中でも一番美味しく、とても新鮮でした。しかし取る過程で割れているトマトもあったので、まだ食べることが出来るのになと思いつつ捨てるのはもったい無いと感じました。ミイ子さんはいつも一人で収穫作業や葉っぱを切ることを行なっていると考えると、とてつもなく大変なことだと感じました。また季節が夏ということと、ハウスで作業を行ったので、とても暑く、汗を沢山流しました。

休憩時間には、スイカや梨、そして、お昼ご飯のおかずを作ってくださいました。気分転換になり、楽しく作業を進めることができました。



8月21日 子供たちとの勉強会

・勉強を教える・木工クラフトの作成

午前中は子供たちに勉強を教え、午後はクラフト工作を行いました。

最初挨拶した時にお互い緊張しながら始まった勉強会でしたが、徐々に打ち解け合い、勉強もスムーズに教えることができました。お昼ご飯の時間は主におにぎらずを作りました。具材は愛子さんや春華さんや子供達のおばあちゃん達が作ってくださいました。バイキングのように好きな具材をとって、一緒に作りました。食べきれないほどのおかずを作ってくださいました。とても楽しくお昼ご飯を食べることができました。クラフト工作では大人の手を借りず、子供達が思い思いに作っているのを見て、とても和みました。おやつの中では女の子たちが積極的に作ってくれて美味しく楽しく食べることができました。久しぶりに子供達と関わって元気やパワーをたくさんもらいました。子供のパワーに圧倒されることもありましたが、子供達とお別れする時に名残惜しさを感じました。



8月22日～24日 佐藤正俊さん・ムツさん

- ・菊の苗植え・赤大根の種まき・花の収穫・きゅうりの収穫と片付け
- ・ネギの肥料をあげる・唐辛子の葉っぱとり・白菜の種まき・雑草取り
- ・トマトの葉を間引く

正俊さんムツさんのお家にお世話になりました。農作業を教えてもらいましたが、他のことについても教えてくださいました。その中で一番印象に残っているのは人の良いところを盗むということです。なんでも人に聞くのではなく、人のやっているところを見て、それで自分で吸収出来るところはして、作業を効率よく行うことを学びました。私は人に簡単に聞いてしまうことが多いので、そういうところを直して自分を成長させていきたいなと感じました。

農作業ではとても暑かったので、大変な部分もありましたが、正俊さんに丁寧に教えてもらったので順調に作業することができました。

きゅうりの収穫をする時にはとても大きいきゅうりや曲がったキュウリなど様々な形のものがあり、それを出荷できないのはとても残念であり、もったい無いと感じました。

またトマトの葉を間引けば良いのか難しかったのですが、やっていくごとにコツをつかみました。今回3日間で種まきから収穫や片付けなど農業の一連の作業をやらせていただいて、とても貴重な体験をして、農業に少し慣れたような気がしました。

また特にすごかったのはゴーヤのグリーンカーテンです。とても立派で涼しく、夏らしさを感じました。



8月25・26日 川俣シャモ祭り

・まかないのお手伝い・丸焼きの挑戦

1日目は、裏方でお祭りのスタッフさんのためのまかない作りをお手伝いさせていただきました。その後は、105羽のシャモの丸焼きに参加しました。

まかない作りでは、シャモカレーやシャモの唐揚げをはじめとする数々のシャモ料理を作りのお手伝いをしました。また、シャモ祭りのために特別に川俣シャモの肉と卵を使用した親子丼も数量限定で作られました。午前のお仕事が終わった時には、その親子丼を私たちにも作ってくださり頂きました。午後は、初めて丸焼きというものに挑戦しました。60mを超える長さの棒に参加者みんなで一斉にシャモを焼いていく様子は想像以上に迫力いっぱいでした。しかしその分、焼けるまでにかかる手間も必要で、1時間あまり炭火をあおぎ続けなくてはなりません。目の前にある火の熱さで、思っていたよりも大変な作業となりました。けれど焼きあがった後の達成感はとても大きかったです。

2日目は、インターンの事務局の方が視察に来ていたので一緒に参加者として楽しみました。

川俣町の一大イベントである川俣シャモ祭りに、参加者としてだけでなく運営の一部分にも携わらせていただいたことで、楽しい部分と運営面の方々の努力との両方を実感することができ、いい経験となりました。



8月27日 高橋佑吉さん

・花の出荷作業のお手伝い

高橋佑吉さんと恵子さんのハウスにお邪魔させていただきました。「アンズリウム」というお花を聞いたことはなかったのですが、今回作業をして葉っぱのようなお花で、私が思い描くお花とは全然違いました。」たくさんの種類があって、色とりどりで綺麗でした。ツヤを出すために牛乳で拭いたのには驚きを感じました。またハウスの中を見せていただいた時に「ポリエステル媒地」を使っており、土を使わずに液肥で作物を栽培するため、土壌汚染とは無縁で風評被害の影響を受けにくいという理由から作られたということで、沢山工夫されていると感じました。しかしちょっとの傷では出荷できないものも多かったのですが、それはとても残念に感じましたが、とても良い経験をさせていただきました。



8月28日 石河ルイさん

・鶏舎の掃除

この日は天気にも恵まれず、午前中だけの活動となり、午後はルイさんの畑でとれたカボチャ、小豆を使用した「カボチャコロッケ」「きんつば」作りを行いました。

午前中は、鶏舎の掃除を行いました。ニワトリのフンをスコップですくい、堆肥場へ持って行きました。ニワトリのフンは後に肥料となって野菜などを育てる時の肥やしとして使うそうです。粃殻を100%使っているため、フンの中の成分が強くなりすぎないので、野菜にもちょうどいいくらいになるそうです。なので、ルイさんの畑ではその肥料を使い様々な野菜を育てています。ニワトリは全部で28羽いて、1日に1羽につき1つの卵を産むそうで、卵もたくさんとれるそうです。実際に私たちが朝鶏舎に行った時も10個ほどの卵をとることができました。鶏舎の掃除は想像以上に重労働に感じました。けれどやっているうちにどんどん『もっと綺麗にしたい!』という気持ちになりました。そして、フンをとり終え、新しい粃殻を一面に敷いた時にはとても清々しい気持ちになりました。



8月29日 佐藤千代さん・佐藤米子さん・菅野茂さん

この日もあいにくの天気で、午前中に予定されていた、千代さんのお家での活動は中止となってしまいました。

午後には、まず佐藤米子さんのお宅へお邪魔して、米子さんと、旦那さん、後からお嫁さんとお孫さんの皆さんとお話を楽しみました。川俣町での農業のお話や、震災当時のことなど、様々なことを教えていただきました。

その後は、交流館にて菅野茂さんを中心に、茂さんのお家でもとれた「もち麦」の真空パック詰めを行いました。もち麦の中に、カラスエンドウの種や白米の混ざった状態から、事前にもち麦を選別していたところからこの作業は始まっていたので、自分たちで一つ一つ分けたもち麦を機械を用いて真空パックにすることでやっと全てが終了し、大きな達成感につながりました。



* インターンを終えて

今回のインターンを通して、地域づくり・地方活性化をどのようにしていくのかということについて学ぶことが第一の目的ではありませんでした。しかし、この川俣町での2週間は、それよりももっと根本となる地域の現状を知ること、自分自身が地域の方々とコミュニティを形成していくこと、地域の方々の地域に対する思いを知ることができたように思います。地域づくりというのは、それを目指す人が外から変化を加えていくものではなくて、そこに携わり、その一員として内側から動かしていくものであるということをしかりと実感することができました。地域の現状や実態というものは、人口構成や空き家率などのデータから見られるものではなくて、そこに生活している人たちとしかりと向き合っていかななくては捉えられるものではないということも学びました。

今年のインターンは2週間という限られた短い期間しかありませんでした。けれど、その期間の中でも多くの小島の方々にお世話になり、全く初めての土地であった福島県川俣町小島地区という地域について様々なことを教えてもらいました。それだけでなく、この川俣町のインターンの目標が、“住民として生活すること”ということが挙げられていたように、自分自身もそれを体験し、川俣町という町の一員として過ごすことができたように思います。そしてインターンの内容として農作業というのは初めて行う普段行なっていないことであるから体験という形ではありましたが、農家さんにとってはそれがあくまで生活の一部であるんだということは強く感じるすることができました。たった2週間で地域の一員になれたとはまだまだ言い難い面もありますが、それでも「今度〇〇が収穫できるときにおいでよ」「次来るときはうちに泊まっていいからね」というようなお言葉をたくさんいただいて、本当にうれしく思いました。活動でお手伝いに伺った時には、とれたての野菜やお米、お昼ご飯にはおかずを出していただいたり、お休みの時にはご飯や山へ連れて行ってくださったり、小島地区のみなさんのあたたかさを存分に感じることで今ではこの地域を離れがたく思っています。

このインターンで、新たな発見や新しい知識をたくさん得て、自分の視野を大きく広げるきっかけともなりました。短い間でしたが、多くの方にお世話なりとても感謝しています！ありがとうございました！

大和 亜紀

地域づくりインターンを終えて、今までにしたことのない体験をたくさんすることができました。農作業ということをはとんどしたことがなかったので、不安な部分もありました。しかしお世話になった農家さんの方々がとても優しく、ここに住んでもいない私達をあったかく出迎えてくださったので、楽しく農作業をすることができました。

本音を言うと2週間は長いかなと思ったのですが、今終えてみると意外と短くて、ああ、もう終わってしまうということに驚きを感じています。普通は1ヶ月で、今回は2週間なので、たくさんの行事が詰まっており、毎日いろいろなことが新鮮でした。夏の暑い中、農作業は大変でしたが、農家さんが色々気を遣ってくださいました。

また農家さんと話して話題に出ることが多かったのは、イノシシなどの獣の被害です。作物が食べられてしまったり、鶏が食べられてしまったり、地面が掘られてしまったりしているのを実際に見ました。昔はよく山の奥の方に現れていたイノシシが今では、山から降りてきて、作物を荒らしにきってしまう話を聞いて、環境の問題がとても身近に感じましたし、こんな近くに起こっていることに驚きを感じました。そして道路にも出てくると言うことは、作物だけではなく人間にも被害を与えそうでとても危険に感じました。

川俣町はどこのインターン派遣先よりも地域に密着して、活動をすることができたと思います。ほぼ毎日違う農家さんにお邪魔させていただいて、距離が近いということが一番感じました。想像していたこと、実際に起こっていることの差を感じることができましたし、人のあたたかさを知ることができました。また私が住んでいる都会では、周りに誰が住んでいて、どういうことをしているのかがほとんどわからない状態です。しかしここではみんなお互いのことをよく知っており、その地域のことを知っていました。そして家にインターホンが無かったことに、お互いのことを信頼してこそできることだと感じ、驚きました。川俣で過ごした2週間は想像していたよりも濃くて、一生に残るものだと思います。大変だった分、やりがいというものを感じ、得るものもとても大きかったです。ここで出会ったひとたちは私にとってとてもかけがえのないものとなりました。農家さん、交流館の方々、役場の方々、2週間本当にお世話になりました。ありがとうございました！

齋藤 裕未

